

共に歩むばれいしょの生産振興

(独)種苗管理センター 理事長 **野村 文昭**

いも類振興会が創立60周年を迎えられ、また、事業活動の一環として刊行されている「いも類振興情報」が100号となりましたことを心からお慶び申し上げます。

貴会は、昭和25年に財団法人諸類会館として発足され、これまで、いも類の生産、流通及び加工に関する改善、消費拡大に関する啓発、新規用途や販路確保に向けた各種事業等に取り組まれ、我が国のいも類の生産及び関連産業の発展に大きく貢献してこられました。とりわけ、昭和58年のいも類振興会への名称変更を機に発行された「いも類振興情報」は、いも類に関する幅広い情報を提供する専門誌として、今回、100号を迎えられましたことは、貴会及び関係の皆様のご尽力の賜であり、心から敬意を表します。

昨年は、地球規模の気候変動、BRIC's等の経済発展による食料需要の増大、バイオ燃料の原料用穀物需要の増大等により世界的な穀物の需給ひっ迫と価格高騰を招き、さらには食の安全への国民の関心の高まりも加わり、長い間逆風にあった我が国農業の潮目が変わったといわれました。現在は、小麦等の豊作予測などに加え、世界的な不況による穀物需要の減退などから需給が緩和していますが、これらの需給ひっ迫要因は中長期的にみると構造的なもので

あり、これからは食料、農業が重視される時代になると思います。

折しも、昨年は、国連の「国際イモ年」であり、日本でも食料安全保障の確保と貧困の削減におけるいも類の重要性について認識を高めるための様々なイベントが開催され、貴会の活動が高く評価されたところでもあります。

種苗管理センターも、貴会とほぼ同じ時期の昭和22年に設置された「農林省馬鈴薯原原種農場」を母体の一つとしており、健全無病なばれいしょ原原種の生産・配布を通じて我が国のばれいしょの生産振興を図っておりますが、当センターでは貴会が作成された新品種PRパンフレットや教育関係者や学童向けのパンフレット等を大いに活用し、一般公開等の様々な機会にいも類のすばらしさを幅広くPRしています。また、貴会の平成18年度及び19年度「販路確保事業」では、当センター雲仙農場の輪作ほ場を活用し、新品種候補の加工適性評価のための甘しょの生産を受託する等、さまざまな面で一緒に仕事をしており、今後とも、我が国のばれいしょの生産振興に貴会と共に歩んでいきたいと願っています。

食料、農業、そして、いも類が重視される時代にあって、貴会が創立60周年を機に、更に発展されることを祈念申し上げます。